|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ４年 | ４  | 一億をこえる数 | 　　　組　　　番名前（　　　　　　　　　　　　　） |



次の問題に答えましょう。

　①　次の（　　　　　）にあてはまることばをかきいれましょう。

差

和

　　　たし算の答えを（　　　　　）、ひき算の答えを（　　　　　）、

商

かけ算の答えを（　　　　　）、わり算の答えを（　　　　　）といいます。

積

　②　数字でかきましょう。

　　　㋐　二四千億　　　　　　　　　　 　　（　 　　 　　　　　　　　　　　　　　）

２４０００００００００００

㋑　1000万を６３こ集めた数　　　 　 （　　 　 　　　　　　　　　　　　　　　）

６３０００００００





　むかしの算数の本に吉田光由がかいた「塵劫記（じんこうき）」という本があり、

その中に「ねずみ算」についてかかれているところがあります。



正月に、ねずみ父母いでて、子を十二ひきうむ。おやともに十四ひきになる。

このねずみ二月には、子もまた子を十二ひきづつうむゆへに、おやともに、

　九十八ひきに成。

（今の言い方にかえると）１月に、ねずみの父母が、子ども１２ひき（オス６ひき、メス６ひき）をうみます。すると、おやとあわせて１４ひきになります。この父母ねずみと1月に生まれた子どもの１４ひきで、７ペアでき、すべてのペアが子どもを１２ひき（オス６ひき、メス

６ひき）ずつうみます。すると、おやとあわせて全部で９８ひきになります。

 じゅんさんは、９８ひきになる理由を次のようにせつめいしました。

１月は、おやが２ひきで1ペアです。

１ペアが１２ひきうむので、１２×１＝１２、２＋１２＝１４だから、１４ひきです。

２月は、おやが１４ひきで７ペアです。

７ペアが１２ひきずつうむので、１２×７＝８４、８４＋１４＝９８だから、９８ひきです。



（１）じゅんさんのせつめいをもとに、３月のねずみの数をもとめるせつめいをするとどのようになりますか。

　　　次のかきだしにつづけて、３月のねずみの数をもとめるせつめいを、言葉と式を使ってかきましょう。

３月は、おやが９８ひきで、４９ペアです。

（例）４９ペアが１２ひきずつうむので、１２×４９＝５８８、９８＋５８８＝６８６だから、

　　６８６ひきです。

かくのごとくに、月に一度づつ、おやも子も、またまごもひこも月々に十二ひきづつうむ。時に、十二月にはなに程に成ぞ。年中の分、合二百七十六億八千二百五十七万四千四百二ひき也。

（今の言い方にかえると）このように、月に一度ずつ、おやも子も、またまごもひまごも、まい月１２ひきずつうみます。１２月には、どれくらいになると思いますか？

1年間で合わせて二百七十六億八千二百五十七万四千四百二ひきになる計算になります。

　（２）１２月の「二百七十六億八千二百五十七万四千四百二」ひきを数字でかきましょう。

２７６８２５７４４０２

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）